

ビオトープだより第52号

会員・BA より ビオトープに関する情報を提供します。

特定非営利活動法人
日本ビオトープ協会
<https://www.biotope.gr.jp/>

1. 仙台城南高等学校×NPO 法人日本ビオトープ協会「サンショウウオ 保全活動に向けたビオトープ講習会」の開催

個人会員（株）青葉環境保全 佐藤 仁

開催概要

2025年3月4日（火）と5日（水）の2日間にわたって、学校敷地内にサンショウウオが生息する仙台城南高等学校において、サンショウウオ保全活動のための講習会を実施した。仙台城南高等学校自然科学部の学生のほか、同じくサンショウウオの保全活動をしている宮城学院高等学校自然科学部の学生、内部や他校の希望者、引率や関係の教員を含め、25名が受講した。内容としては、ビオトープの基礎知識にはじまり、生息地を調査したのち、ビオトープ創生計画を検討することまでを盛り込んだ充実したものとなった。

開催までの経緯

弊社は2022年より、（株）エコリス（法人会員）の協力の下、高校生を対象とした自然環境調査体験プロジェクトを手がけている。今回の仙台城南高校からもこれまで多数のご参加を頂いており、親交を深めるなかで、仙台城南高校では学校内に生息するサンショウウオの保護に力を入れていることが判明した。そのような経緯で、このたび講習会を開催する運びとなったわけである。

事前の現地調査の様子（2024年10月）

土地の所有者に許可を得て、学校の敷地外にあたる裏山の調査を行った。この場がサンショウウオの生息地であると予想されるが、学校に隣接するとはいえ学校敷地外の土地ということもあり、初めて足を踏み入れたという生徒が多かった。

強風による倒木被害がでたことから、秋に大規模な樹木の伐採作業がおこなわれていたため、生息環境への悪影響が懸念された。

現地調査の後、サンショウウオの保全活動に着手する上で必要な目標の設定、そのために調べておくことや情報管理の徹底などを説明した。そのなかで「ビオトープづくり」をも平行して学ぶことを提案し、高校生を対象とした講習会の素案を練るに至った。



仙台城南高等学校 伊藤強校長へ開催説明の訪問（2025年2月）

仙台城南高等学校の伊藤校長より、「教育現場ではなかなか実現が難しい」「より専門的で現場に近い経験」ができる貴重な機会だとして、講習会の開催に快諾いただく。講習会当日は、校長よりご挨拶を頂戴した。

他校の学生の参加もご了承いただき、広報用のチラシの作成（右図）、SNSでの発信を行った。

その結果、会場の仙台城南高校以外に、在仙の3高校より、個人の申込みがあった。

開催の内容

2025年3月4日（火）講習会1日目

「ビオトープの基礎知識」（60分）、「自然環境の復元・再生」（60分）を座学で実施した。

時間制約もあって、圧縮した濃い内容を駆け足ですすめることとなったが、講師の佐竹氏（NPO法人日本ビオトープ協会副会長・北海道東北地区委員長、株式会社エコリス）は現在、荒廃した里山の開拓中であり、そのような事例を巧みに織り交ぜることで、学生の関心を集めていた。また、業務における経験談も学生の興味を惹き、理解が進むポイントとなっていた。

また、座学の合間の時間に、サンショウウオの産卵地を確認した。

3月の寒暖差が激しいなか、産卵が始まった様子が観察できた。



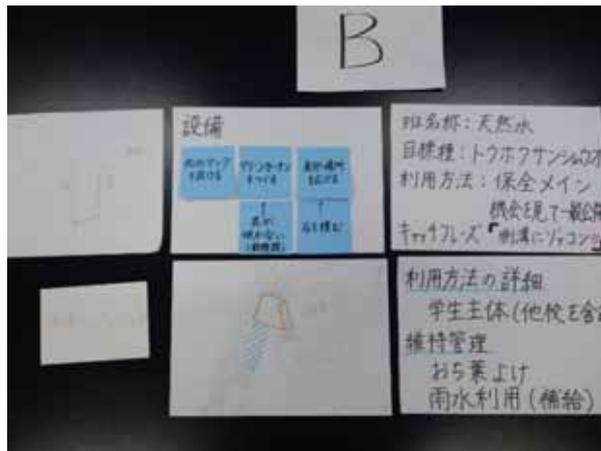
開催の内容

2025年3月5日(水)講習会2日目

「ビオトープづくりの実践」(60分)について講義後、グループに分かれ、「ビオトープ計画」に取り組んだ。大人を対象とする講義内容のため、やはり苦戦する場面も見受けられた。

発表時間を延長し、最後まで粘り強く討論を重

ねてグループとしての意見をまとめた高校生たち。堂々と発表に臨んでおり、質疑応答や意見交換も活発であった点は評価したい。一方で、下校の交通事情のために早退した学生も多く、その点は少々残念であった。



以上のように、部活動ひいては高校の垣根を越えた講習会となった。これを機に高校の部活動同志の交流や情報交換が盛んになることを期待するとともに、そのような機会が創出しやすい現場の空気づくりの醸成に尽力していきたい。

以上